

GX 実行会議で示された原発推進方針に関する質問（2022年9月12日会合用）

1. 原発推進方針の検討について

- (1) GX 実行会議で示された3つの政治判断を必要とする項目（運転期間の延長、7基の原発再稼働、原発の新增設・リプレース）については、政府のどの部署がいつ検討したのか。
- (2) 今後、政府のどの部署がどのように検討を進めるつもりか。立地・周辺地域の住民や一般市民の意見はどのように反映するつもりか。
- (3) 原子力小委員会の委員が、原子力推進の立場の人が圧倒的多数なのはなぜか。

2. 7基の追加再稼働について

- (1) 岸田首相はGX推進会議で「原子力発電所については、再稼働済み10機の稼働確保に加え、設置許可済みの原発再稼働に向け、国が前面に立ってあらゆる対応を採」と発言したが、具体的に何を行うのか。
- (2) 住民らの根強い再稼働反対の声を背景に、各自治体では原発の再稼働に際して独自の検証作業を行うなど、慎重な対応を行っているが、こうした地元同意（不同意）プロセスに国が介入することはあってはならないと考えるがいかがか。

3. 運転期間の延長について

- (1) GX 実行会議では、「運転期間の延長」が示された。その場合、原発を運転していない期間を「運転期間」から除外することを検討しているとされているが事実か。
- (2) 原発の運転期間は、現在の原子炉等規制法上、「最初に使用前検査に合格した日から起算して40年とする」「原子力規制委員会の認可を受けて、1回に限り延長することができる」とされている。原発の休止期間を「運転期間」から除外するということは、現行法を改正するという意味か。
- (3) 原発を運転していない休止期間中、配管やケーブル、ポンプ、弁など原発の各設備・部品は劣化しないのか。

4. 原発の新設・リプレースについて

- (1) エネルギー基本計画では、「可能な限り原発依存度を低減する」としており、原発の新設やリプレースについては記載されなかった。「可能な限り原発依存度を低減する」という方針を転換するということなのか。
- (2) GX 実行会議で「次世代革新炉の開発・建設」が検討課題として示されたが、その内容については明示されていない。一方、原子力小委員会革新炉ワーキンググループでは革新炉として革新軽水炉、小型軽水炉、高温ガス炉、高速炉、核融合炉

が示されている。「次世代革新炉」は革新炉 WG で示された 5 つの炉型を指しているのか。

(3) 革新軽水炉と既に存在する第三世代プラス炉 (ABWR・AP1000・EPR 等) の違いは何か。

問い合わせ先：国際環境 NGO FoE Japan
〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9
TEL: 03-6909-5983
E-mail: info@foejapan.org